

(政務活動費用)

(様式1)

出張報告書

令和4年11月13日

釧路市議会議長 松永 征明 様

会派名 自民市政クラブ

代表者名 草島 守之



次のとおり、政務活動費による出張を終えましたので報告します。

受命者	大澤 恵介
出張先	酒田市、鶴岡市
期間	令和4年10月14日(金)～令和4年10月16日(日) 3日(2泊)
用務	・酒田駅前再開発事業に係る中通り商店街等の現地視察(酒田市) ・「地域自らが当事者となり、山積する地域課題に挑み、未来を創造する事業」について(鶴岡市)
調査(研修)結果等の概要	別紙参照
備考	

注) 1 資料等がある場合、添付すること。資料は、事務局経由で会派へ返却するので、本出張報告書(原本)とともに会派で保管すること。

2 調査結果等の概要は、別紙による記載も認める。

## 行政視察報告書

令和4年10月14日～16日

酒田駅前再開発事業に係る中通り商店街等の現地視察

今回の酒田市での視察の目的は中通り商店街ですが、まず初めに商店街活性化にも係る、酒田駅前再開発事業の視察を行いました。

酒田市では過去にも2度ほど駅前再開発事業の議論が行われてきましたが、様々な事情により断念せざるを得ない状況が続いてきました。

今回提案された酒田市駅前整備計画方針は旧ジャスコ跡地と隣接街区全域を基本として、「人と人を繋ぎ、多様なコミュニケーションを創出し、新しい風・パワーを生み続けるハブ拠点」を目指し、(仮称)酒田コミュニケーションポート事業としてスタートしました。過程としては平成28年に酒田市と西松建設株式会社が出資しSPC光の湊株式会社を設立、平成30年に工事着工、令和4年7月にグランドオープンしています。

「ミライニ」と命名された酒田市の駅前再開発地区にはホテルやマンション、図書館、観光案内所や物産館、バスターミナル、立体駐車場、レストラン、大会議室などが建設され「人が集まり、交流し、対話をしながら学び、未来で活躍していく」という想いが詰まった素晴らしい施設でした。

駅前が再開発され人が集う施設となった一方で、過去には商店街等活性化事業の好事例として取り上げられてきた中通り商店街は人影もまばらな状態でした。

中通り商店街は酒田市の中心商店街として地域消費者に対する大きな役割を果たしてきました。しかし昭和51年の酒田大火により商店街の90%を焼失。その後、復興に立ち上がるも、ドーナツ化現象など環境の変化により中心地の居住人口の減少と商店数が減少したことを受けて平成16年に「17なかまち活性化委員会」を設立し商店街の問題点の究明と研修を重ね様々な事業に取り組んで来ました。

主な事業としては東北公益文化大学による街中キャンパス、地産地消の推進と伝統の継承を図る事業、方言での接客事業などがあります。事業を行なった当時は街なかキャンパスの年間入場者が1万人を超えるなど連日TVや新聞に取り上げられ大きな話題となりました。しかしその後は事業経費の確保や事業への参加個店の減少などの課題もあり、現在では街なかキャンパスも終了、商店街の核であった地元資本デパートの「清水屋」も閉店となり、冒頭述べた通り閑散とした商店街へ逆戻りしてしまった印象すら受ける状況となっています。費用をかけて事業を行なっている期間だけ効果があって、事業終了と共に閑散とした状態になるのであれば費用対効果をどのように図れば良いのか。

駅前の再開発がもたらした影響や地域を分散しての街おこし事業の効果など、しっかりとした検証が必要だと感じました。駅前再開発事業を抱えた釧路市にとって他人事ではない

事例であると深く感じると共に、釧路市の未来へ向けたグランドデザインの重要性を深く感じる視察となりました。

### ヤマガタデザイン視察

次の視察先は山形県鶴岡市のヤマガタデザイン株式会社です。

ヤマガタデザインは鶴岡市にある山形サイエンスパーク内の宿泊施設建設に向けた誘致活動に山中社長が応募するところから始まりました。

当初予定していた宿泊施設事業にとどまらず、現在では地域課題を解決する事業をデザインし子供たちが生きる未来に自らも希望をモテる社会を実現するというコンセプトの元、観光・教育・農業・人材と幅広い事業を展開しています。

山中社長は説明の中で、今の地方における「まちづくり」の定義が曖昧、利他的な若者が実行力を搾取されているとし、地域課題は人口減少と少子高齢化、若年層流出と経済縮小であり行政機能への依存限界は限界であり財源も縮小し硬直化している。

民間主導の解決法を持って行政を補完すると力強く話されておりました。

庄内地域は高速も新幹線も無い陸の孤島と呼ばれている中、庄内に住むことが絶対条件としながら都市部から若い社員を集め、社員の平均年齢35歳です。

庄内地域におけるまちづくりの当事者は少なく、庄内地域に圧倒的な当事者を作る目標を掲げ、地域企業40社23.3億円、全国企業13億円、総額で36.3億円の資金を調達し事業を行っており、その後も出資は増え続けています。

観光事業のスイデンテラスには年間6万数千人宿泊しコロナ禍から回復しつつある今年は単月1、6億円の売上を達成。庄内地域は無名でありインフラも悪く飛行機は一日4便、人材確保が難しく、田んぼになど魅力はないとマーケティング会社に言われていた事たそうですが、マーケティングだけ考えると地方は何もしない方が良い、考え方が地方では成り立たないなどの意見も今では消し飛んでいます。山中社長は地域全体にお客さんが回遊する機会を作りたいとし、ホテルでは基本夕食を提供せず、地元飲食店を紹介し庄内地域のファンを増やしリピート率の向上を目指しています。

また教育の分野ではSDGS教育を推進しグリーンマーケットの獲得、貧困の連鎖を断ち切りたいとの思いからSORAIという施設を建設、庄内藩では徂徠学が学ばれていた事例を参考に120名の学童保育を行い、フリースクールも行なっている。

更に人材派遣業や有機農業など幅広い取り組みで庄内地域の活性化を図っている。

山中社長はまさに3つの者を兼ね備えた人物であり、強力なリーダーシップを発揮してヤマガタデザインを率いている。

今回の視察で感じたことは、地域で人材を育てることも大事だが、国がスタートアップを強烈に支援している現状を踏まえ、釧路市においてもスタートアップやベンチャー企業の

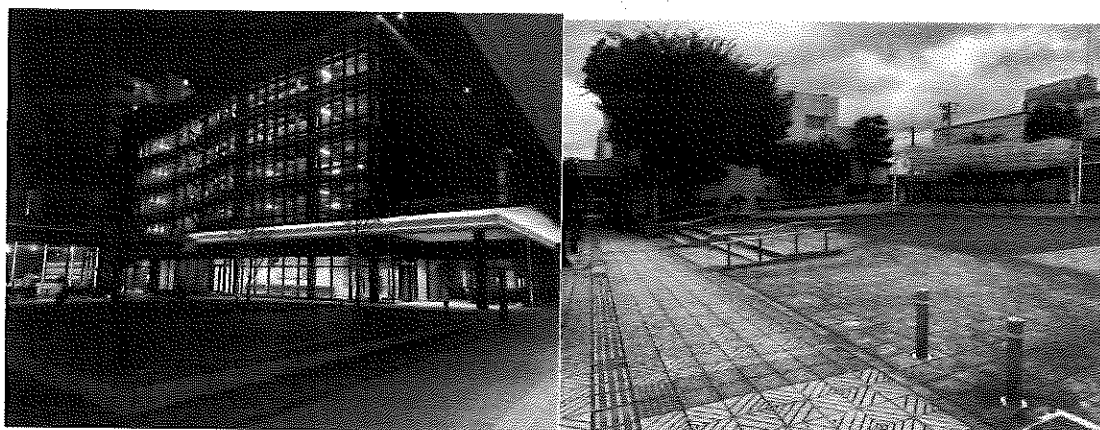
創出を推進すべきという私の従来の発想を強く再確認する機会となった、釧路市の経済発展に向けて今後も全力で取り組みたい。

酒田市



駅前再開発ホテル

中通り商店街



駅前再開発地区

中通り商店街

鶴岡市



教育施設

視察の様子



農業施設

ホテル